

成城大学 就業力育成・認定プログラム



成城大学キャリア支援部 長尾 繁樹

「成城の就業力。」とは、他者と協調しながらも自らを高め、集団を牽引する力を言います。就業力育成・認定プログラムは単に就職することだけを目的とせず、未来社会に貢献できる就業力を育成することをテーマとしており、本学が考える現時点のキャリア教育の形です。

■就業力育成・認定プログラムの設置経緯、概要について

●これまでの取り組み

本学では、平成18年度より、正課の全学共通教育科目として、「キャリア形成論」を提供するとともに、正課外プログラムとして1、2年次を対象にした本学独自の「キャリアサポート・プログラムMAP」を展開してきた(平成21年度選定「大学教育・学生支援推進事業」)。従来のこうしたカリキュラムやプログラムは、キャリア形成の理念的な側面、あるいは様々な角度から自分自身や将来を見つめる「気付き」の醸成を目指すものであった。

しかし、それは我々が考えるキャリア教育全般を網羅するものではなかった。具体的には、実際に「働くということ(勤労観)」や「職業・仕事・業界・企業を知ること(職業観)」を知る・学ぶという側面が不足していたのである。そのため、キャリア支援部は、学生にキャリア形成の事例を学ばせ、自ら考えさせる機会を与える実践的なキャリアプログラムを展開することとした。

●就業力育成・認定プログラムの目的

本学は、基本的な目標の一つとして「未来社会

へ貢献する大学」を掲げている。就業力育成・認定プログラムの目的は、仕事つまり働くことを通じて未来社会に貢献する人材を育成することにある。

本学学生は、誠実で学ぶことに対して真面目であり、就業力にとって不可欠な人間関係構築力については優れているという評価を受けている。その一方で、行動力あるいは主体的な取り組みの姿勢については、やや物足りないという意見がある。

このような意見を受けて、本学では、個性尊重の教育理念の下、全学部生を対象とした本プログラムを展開し、他者と協調しながらも自らを高め、集団を牽引する人材、自ら考え行動する人材を育成することを目指した。大学としては、このような十分な実践能力をもった人材について就業力の質保証を行っている。

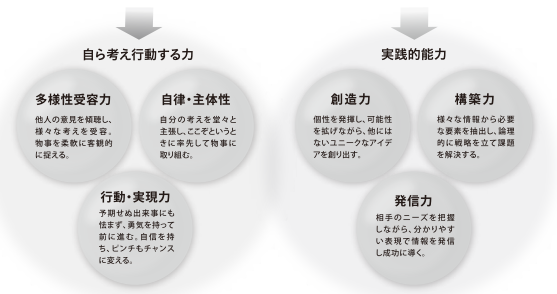
●就業力育成・認定プログラムの特色

このプログラムは、「キャリアサポート・プログラムMAP」の特徴であった「気付き」「意味づけ」「自分を知ること」「他者を知ること」「社会を知ること」がベースになっている。そして、それぞれをさらにレベルアップさせていき、大学4年間かけて継続的かつ段階的にプログラムを展開していくことで、確実に学生自身の知識と経験を深化させることを目指した。プログラムの特色として、次の5点を挙げるができる。(図1参照)

まず第1に時間軸をもった体系的なプログラムを構築したことである。入学から卒業までの学生の成長段階に合わせて、勤労観と職業観を醸成し、就業力を育成する。また、授業科目については、

図1 本学プログラムの5つの特徴

「成城の就業力。」とは、
他者と協調しながら自らを高め、集団を牽引する力。
下記2つの力をもつ要素で構成し、本プログラムを通してこれらの要素を高めています。



成城大学 就業力育成・認定プログラム 5つのポイント

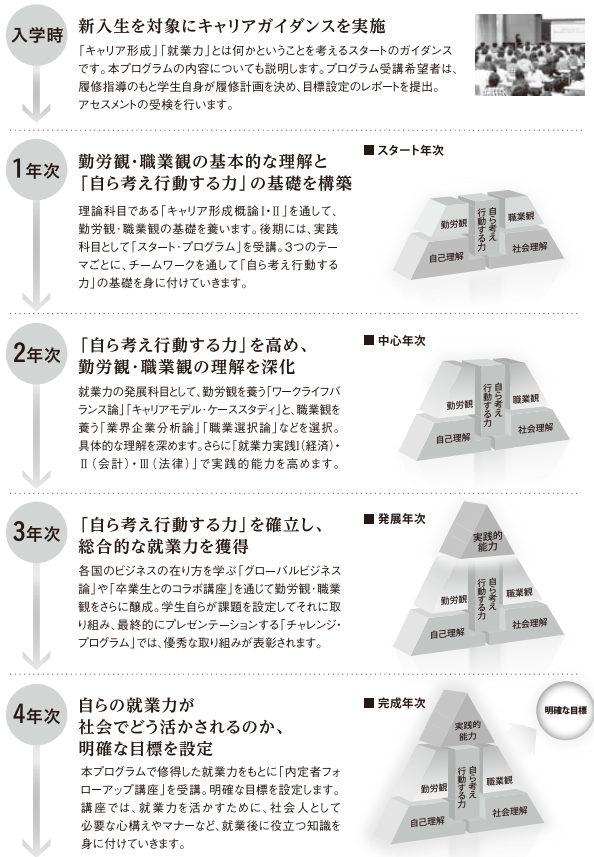


図3 授業カリキュラム

※前期に理論(講義)、後期に演習(実技)科目を配置

学年配当		授業科目名	単位	開講学期
1・2	就業力基礎科目	キャリア形成概論Ⅰ	2	前期
1・2		キャリア形成概論Ⅱ	2	前期
1・2		スタート・プログラムⅠ(街づくり)	2	後期
1・2		スタート・プログラムⅡ(企業提案)	2	後期
1・2		スタート・プログラムⅢ(起業)	2	後期
2-4	就業力発展科目	業界企業分析論	2	前期
2-4		職業選択論	2	後期
3・4		グローバルビジネス論	2	後期
2-4		ワークライフバランス論	2	前期
2-4		キャリアモデル・ケーススタディ	2	後期
3・4	就業力強化科目	チャレンジ・プログラム	2	後期
1-4		時事英語Ⅰ	2	前・後期
1-4		時事英語Ⅱ	2	前・後期
2-4		時事問題研究	2	前・後期
2-4		就業力実践Ⅰ(経済)	2	前・後期
2-4	就業力実践Ⅱ(会計)	2	前・後期	
2-4	就業力実践Ⅲ(法律)	2	前・後期	

図2 体系的なプログラム



履修できる学年も考慮した。(図2参照)

第2に理論と実践の融合である。「理論」とグループディスカッション、グループワークを組み込んだ「演習」を有機的に連携させるとともに、実践力を強化する科目も配置して、積極的に行動する人材の育成を図る。これは、どちらかのカテゴリーの授業科目だけを展開し続けても、学生の理解を深化させるには不十分だと考えに基づくもので、基本的に前期と後期で、それぞれを補完することができるような授業科目を開講し、カリキュラムとして設定している。(図3参照)

第3に多角的連携により重層的で多様な展開を図っていることである。具体的には①正課(全学共通教育科目)と正課外プログラムとの連携、②企業・地域・卒業生との連携(企業や地域をモデルとする演習、地域住民・卒業生との連携)、③学園内各校との連携等を行う。

第4は学生参加型から一歩進め、演習形式の学生提案型プログラムを組み込み、学生の主体的な取り組みにより、モチベーションの醸成を図る形にしたことである。

第5は外部の識者を加えた評価委員会による客

観的な評価システムの構築である。このプログラムを履修した学生に対して就業力ディプロマを授与し、成城大学として就業力の質保証をするとともに、さらに一定の成績基準を満たし、チャレンジ・プログラムで優秀な発表を行った学生には、この委員会の審査を経て、学長賞を授与する。また本プログラム自体も、毎年度この委員会の評価を受け、適宜見直しを行うことにより、社会の変化に合わせた改善を図っている。

●これまでのキャリア支援

本学では以前から積極的なキャリア支援を展開してきた。単なる「就職支援」とどまらない本学独自の取り組みを紹介したい。本学におけるキャリア支援は、「就職活動支援」と「キャリア・サポート」を二本の柱としている。キャリア支援部は就職活動支援について、単なる内定獲得だけを目標とはせず、学生が就職後も永続的に働き続けられるよう根源的な仕事観を醸成できるよう、キャリアアカウンセラーによる個別相談に力を入れている。このことは、少人数制をとる本学ならではの特色といえる。このほかに、8～12名を定員とした少人数講座を展開したり、採用模擬面接を実施するなど、きめ細かいサポートを行なっている。卒業生の進路は幅広いが各々が進んだ先々で社会に貢献できるような人材となっている。

●就業力育成支援について

成城大学における就業力育成支援は、文部科学省の同事業の採択を受けた就業力育成・認定プログラムとともに、平成22年度より本格的に始まった。

当該事業における取り組みの一つには「全学共通教育科目」の一つのカテゴリーである「キャリアデザイン科目群」を刷新し、新たなキャリアデザイン科目を加えて開講したことがある。学生は、本カリキュラムにおいて理論科目と実践科目を繰

り返し学ぶことで「自ら考え行動する力」「未来社会に貢献する実践的能力」「他者と協調しながらも自らを高め、集団を牽引する力」と定義づけた「成城の就業力。」を身に付けることができる。

【プログラム構築のプロセスとカリキュラムの流れ

●定義の確立とプログラム構築

「就業力」という言葉を考えた際、単純に理解すれば「職に就くこと」となる。これを大学として捉えれば「大学を卒業して職に就くための力」と考えることもできなくはない。本学としては、単に就職することをゴールとはしていないキャリア支援の理念、そして支援体制下で、どのようなプログラム構築・展開が適しているのかということを経験の問題として検討を重ねた。そして、就業力を「学生が卒業後就職し、長きにわたって未来社会に貢献できるような人材となるために必要な力」と定義することとした。本学は、この力を「成城の就業力。」と呼称し、それを育成するためのプログラムを構築したのである。

プログラムは、前述のとおり、平成18年度から展開してきた授業科目「キャリア形成論」と正課外プログラム「キャリアサポート・プログラムMAP」で培った経験をベースとしながらも、全く新しいカリキュラムとなっている。その際、学生にはどのような内容が適しているか、どの段階でどのような学びが必要か考えることから始まり、個別の項目を学年ごとに切り分け提供していくこととした。

また、授業科目を展開する上で気を付けたことは、テクニックやノウハウの獲得に偏ることなく、むしろ、学生が自ら考える仕組みを作り出していくことである。つまり、担当教員が一方的に講義するスタイルから学生自身が適宜授業に積極的に参加し発言する内容を全科目に盛り込んだ。

さらに、卒業するために必要な単位数として参入できる授業科目は2科目4単位までとなってい

るが、自身の成長・学びにつながるということを学生に理解させることで、より積極的にプログラムに取り組ませる意識を持たせることとした。具体的なカリキュラムの流れを次に示す。

まず、学生は1年次の前期に、「理論」として「キャリア形成概論Ⅰ」「キャリア形成概論Ⅱ」をセットで履修することにより、自身のキャリアを幅広い視点で考える力を養う。そして本授業科目の単位履修者は、後期に「演習」として「スタート・プログラム」を履修する。学生は、「街づくり」「企業提案」「起業」の三つのテーマから興味のあるテーマを選択する。学生は「単にテーマ」について学ぶことを最終目的とはせず、グループワークやグループディスカッションを通してテーマを理解する。そのことで、学生は自身とは異なる価値観や考え方を知り(異質な他者とのかかわり)、視野が広がる。そうした実践的な力をこのカリキュラムでは身につけることができる。

2年次になると、学生は、より自身の興味関心を考えて授業科目を選択する。「勤労観」の醸成を目的としたカテゴリーには、前期に「ワークライフバランス論」、後期に「キャリアモデル・ケーススタディ」を、「職業観」を醸成することを目的としたカテゴリーには、前期に「業界企業分析論」、後期に「職業選択論」を開講した。学生は主となるカテゴリーから2科目4単位を履修し、もう一方のカテゴリーから1科目以上を選択することが条件となっている。こうした授業科目を二年次に開講することで、結果として早期から自身のキャリアを考えさせるとともに社会理解も促進させる。

プログラムの中核となる3年次においては、幅広く世界のビジネスを理解するための授業科目として「グローバルビジネス論」を、最終段階の学生提案型プログラムとして「チャレンジ・プログラム」を開講している。こうした3年間には、さらに就業力を育むための授業科目として、「時事問題研究」「時事英語」(就業力関連科目群)、「就

業力実践(経済・会計・法律)」「(就業力実践科目群)を開講し、幅広い観点から「就業力育成」を目指している。

このように、段階的に授業科目を展開するプログラムを160名の受講定員を設けて、平成23年度からスタートさせた。現在(平成25年度)は、1期生が3年生となり、3期生までが授業科目に取り組んでいる。

Ⅰ 学生の成長とサポーター制度

● 就業力サポーターの存在

就業力育成・認定プログラムの運営にあたって欠かすことのできない存在が、「就業力サポーター」(以下サポーター)の学生である。サポーターは、就業力育成・認定プログラムの参加者という立場から、広報活動を担うことをその役割としている。主な活動内容は次のとおりである。

- ・オープンキャンパス(受験生対象)における本プログラムの説明会の担当・実施。
- ・成城大学内の本プログラム公式ホームページならびにWeb媒体の編集・制作。
- ・「成城大学 就業力育成・認定プログラム」と、サポーターの活動を多くの方に知ってもらうことを目的に、学生の視点で企画を立案。

現在は、1期生から3期生までの受講学生の中から有志で約30名の学生が参加しており、それぞれの場面で広報活動を担っている。サポーター活動は、いわば、授業を通して学んだことを実践する就業力育成のための場として考えている。

Ⅰ 運営上の課題

● 社会状況に応じた授業科目の展開とその柔軟な見直し、そして専門科目との接続

本プログラムで展開されている授業科目は、どれも社会状況と密接にリンクしており、リアルタイムに起きている事柄を適宜取り入れながら授業科目を展開することが必要となる。また、それ

ぞれの分野において第一線で活躍されている方を招へいし、授業を担当いただくことを目指しているが、社会状況に応じて、適宜授業内容の変更や授業科目そのものの変更・追加も視野に入れなければならない、カリキュラムの評価も常に求められる。その際には、学生の学習状況の把握や理解度のチェック、そして、履修後の学生の動向も把握することが肝心である。こうした授業科目とそれぞれの所属学部の専門科目との接続も重要なテーマである。

本学としては、単に本プログラムを受講すれば、学生それぞれの「キャリア」が形成されるとは考えていない。本プログラムを受講することで自身のキャリア形成、他者との関わり、社会情勢を知ることの一助とはなるが、それをさらに深めていくためには、それぞれの所属学部における専門科目の学びが必要となる。本プログラムの授業と各学部の専門科目が密接にかかわり、スムーズな連携を取ることで、学生はより重層的に学びを深化させることができる。

なお、本学では、同プログラムを学生に対して必修化しておらず、今後も必修化する予定はない。半強制的にキャリア形成に取り組ませるのではなく、あくまでも、学生個々の発達段階と意識を重視し、自身が今必要だと思えば学ぶ、という選択制を取っている。また、全員が本プログラムを受講することが望ましいとも思わない。本プログラムを受講することで成長し、キャリア形成していく学生もいれば、別のプロセスを経て成長していく学生がいてもいいと考えているからである。このことは、本学の教育理念「個性尊重」にもつながる部分である。

■今後の取り組みについて

本学は、就職活動支援とキャリア・サポートの両輪を本学の特徴として維持したまま、今後も就業力育成支援事業を推進していきたいと考えてい

る。就職活動支援においては、世の中の現状を見据えながら、学生の個性に応じた支援が行えるよう、本学ならではのきめ細かいサポートをより強化していく方針である。

就業力育成支援については、本プログラムの継続とともに、学生一人ひとりが自分のキャリアデザインを描けるよう、「成城の就業力。」の育成を目指していく。

また、こうした取り組みをさらに進化・発展させていくためには、大学単独での取り組みでは、もはや様々な意味で限界があるため、新たな展開として、平成24年度より、本プログラムと並行する形で「大学間連携共同教育推進事業」をスタートさせた。本事業では、各地域でキャリア教育に積極的に取り組んできた京都産業大学、新潟大学、福岡工業大学、そして成城大学が連携し、それぞれが培ってきたキャリア教育の経験を共有することで、新たなプログラムの構築を目指すとともに、学生の学修時間の向上をゴールの一つとしている。

若年層へのキャリア支援、そして就業力支援は、いつの時代においても喫緊の課題である。多様な価値観・働き方が次々に登場してくる今日において、学生が自身のキャリア形成を考える際に、大学が果たすべき役割も変化してきている。将来を見据えて、大学卒業後も自身の力で将来を切り拓き歩んでいけるようになるためには、どのような学びや経験が必要かを考え提供する。学生の自主性・能動的思考を醸成するための取り組みを惜しむことなく展開していきことが求められていると考える。